

建物の応急点検チェックリスト導入サービス



首都直下地震や南海トラフ沿いの巨大地震等の大規模地震の発生が懸念されるため、発災直後、迅速に建物の被害状況を確認することが、人命安全及び事業継続の観点から必要です。例えば、帰宅困難者対策の一環として、72時間(3日間)を目処に建物内に待機することが求められています。株式会社イー・アール・エスでは、専門的な知識を持たない建物管理者等が、建物の安全性を応急的に点検・確認できる応急点検チェックリストを提供します。

目視による建物安全性の確認

- 事前の構造検討や現地調査に基づき、**建物の特性に合わせて、目視で点検すべき箇所やポイントを整理**
- 迅速な判断のため、**点検箇所は極力少なく設定**
- 点検箇所の被害程度は、**損傷程度の例示をもとに、最も近いものを選択**
- 点検箇所を集計することにより、**建物の安全性を確認**

応急点検チェックリストの例

応急点検チェックリスト 損傷確認表	
項目	確認結果
柱・壁の損傷	○ 正常 □ 軽微 △ 中程度 × 重大
床の損傷	○ 正常 □ 軽微 △ 中程度 × 重大
天井の損傷	○ 正常 □ 軽微 △ 中程度 × 重大
窓ガラスの損傷	○ 正常 □ 軽微 △ 中程度 × 重大
その他の損傷	○ 正常 □ 軽微 △ 中程度 × 重大

※ 損傷の程度は、以下の例示をもとに、最も近いものを選択してください。

損傷度の例示 (柱)

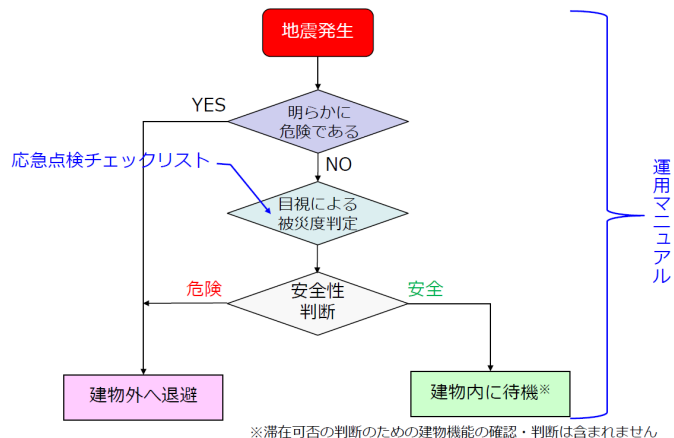
損傷度の例示 (床)

損傷度の例示 (天井)

損傷度の例示 (窓ガラス)

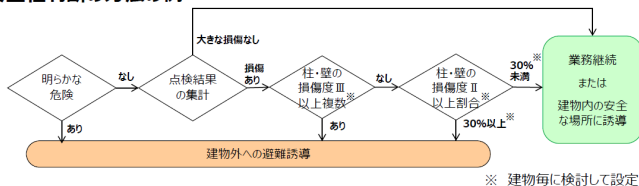
損傷度の例示 (その他)

目視による建物安全性の確認フロー



安全性判断方法と運用マニュアル

安全性判断の方法の例

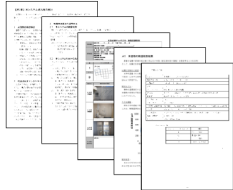


※ 建物毎に検討して設定

運用方法を運用マニュアルとして整理

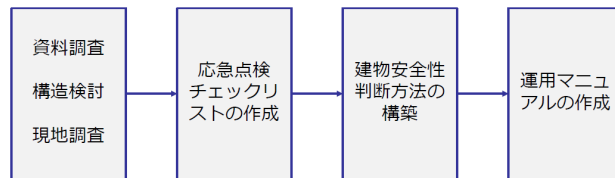
- 【第1章】建物安全性確認の概要
- 【第2章】導入時の検討
- 【第3章】運用方法
- 【巻末】
 - 建物の構造的な特徴
 - 応急点検チェックリスト など

運用マニュアル



応急点検チェックリストの導入の流れ

弊社のサポート内容



※導入後も、応急点検チェックリストの**訓練等**をフォローします